

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200397		
法人名	株式会社 ウェブインテリジェンス		
事業所名	グループホーム かたかごの郷		
所在地	〒933-0122 富山県高岡市伏木矢田上町134-5		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/16/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=1690200397-00&PrefCd=16&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	富山県社会福祉協議会
所在地	富山県富山市安住町5番21号
訪問調査日	平成27年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全体研修などにおいて、入居者様の立場になって考える事、気づきや思いやりを持つ事など、職員一人一人の向上心の育成に取り組んでいる。入居者様・ご家族様が安心して、ご自身の自宅と変わらない様な生活を送っていただける様に、職員が情報を共有し、より良い支援ができるように努めています。地域との交流を今後も継続し、地域の方々から愛される施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・港が近くにあったり、立山の変化が感じられるなど自然に恵まれた環境にある。開設2年目で、住居環境も整い清潔に保たれている。
 ・「地域の人びととの交流を深めかつ広めたい」という理念のもと職員が努力を重ねている。近隣の方との日常的なコミュニケーション、公民館活動への参加、小学生や地域のボランティアの参加、災害時の地域の協力、運営推進会議の質の高まりなどがみられる。
 ・職員のチームワークと仕事への前向きな取り組み姿勢が感じられた。利用者の表情も明るく、元気な会話がが多い。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を意識した支援を提供できるように、目につく場所に掲示してある。職員の名札の裏にも掲載し、朝礼時に唱和することで、運営理念を意識するように心掛けている。	理念に沿った介護サービスの提供をするため職員が日々努力している。「自分の家で過ごしたい」という利用者の願いに近づけるように職員全体で実践している。	職員が理念の実践を心がけていることを地域の人や家族の方にもご理解いただけるよう、理念の周知方法を検討されることが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、近隣の小学生、ボランティア活動の方々との交流を図り、地域の一員として安心して暮らせるように努めている。	事業所周辺の散歩を日常的に行っている。スーパーや薬局への買い物や公民館活動の参加、住民運動会などの参加、各種ボランティアの受け入れなども積極的に行っている。近隣から野菜やお花が届くことも多い。	定期的な介護相談員の訪問なども活用し、利用者の活き活きとした生活の状況を知ってもらう工夫を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の理解や支援の方法を発信している。周辺地域の方々から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、消防等)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、自治会長・地域包括センター・民生委員・入居者様ご家族などに参加いただき運営推進会議を開催し、入居者の状況及び活動報告を行っている。委員の方々より評価及び助言・要望等をいただいている。会議結果は職員全員に伝達され、事業運営やサービスの改善に生かしている。	運営推進会議は計画どおり開催されている。出席者の構成も初年度より充実している。内容についても報告のみでなく、話し合いや課題の検討もされ積極的に受けとめる体制づくりがなされている。	事業所運営については、その時々に関与した課題を運営推進会議に取り上げて、サービスの向上に努められることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、研修会に参加するなど、協力関係を築けるよう努めている。	市の担当者、地域包括支援センターには、運営推進会議の出席や、職員の研修、利用者に関する相談(家族関係、後見人関係など)を通じて積極的な協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修として、身体拘束排除のための取り組みについて勉強会を行っている。職員全員が意識化できるような体制を整え、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	拘束しないことの職員間の共通理解はできている。身体拘束の意義を理解するための研修を受講したり、マニュアルの作成をしている。現在拘束をするという行為の対象者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを備え職員の理解を深めるため、定期的に研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や、権利擁護に関する施設内勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い理解・納得を得た上で同意の捺印を得ている。入居者様の状態変化等により契約解除に至る場合は、その後の方針を相談し支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際などに十分な時間を取り、ご家族が話しやすい雰囲気を作れるよう努めている。施設内に苦情相談窓口を設けている。	運営推進会議への家族代表者の参加、苦情相談窓口、ご意見箱の設置のほか、家族面会時の家族とのかかわりを職員全員が大切にして接している。	利用者、家族等の気持ちを受容できる姿勢の研鑽を継続することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、朝礼時において、職員は自由に意見や要望を話すことができる。必要に応じ、個別で聞く機会を設けている。自己評価を行い、職員の意見や要望を業務に反映させている。	管理者は職員とのコミュニケーションを大事にしており、気やすく相談できるよう気遣っている。事業所運営についても、朝礼、ミーティング、個別面談などで意見を聞き、日常運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞く機会を持ち、職場環境・条件等の整備に努め、一人一人が役割責任や向上心を持ち、働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。朝礼時に「職場の教養」という冊子を読み上げ、倫理的側面の成長を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は研修に参加している。サービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを何度か実施して本人のニーズを把握して、不安のないよう安心して入居いただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまで何度か機会を持ち、相談・要望・ニーズ等を把握できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長・管理者・介護専門員、本人、家族で話し合い、必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは、自宅での生活の延長上にあり、自宅で過ごすことと同じように、出来る限りその方らしい生活をしていただくこと、職員はさりげなく支援する立場であることを、意識できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の面会時、電話連絡、手紙などにより、家族と情報を共有し、家族の協力を得られるよう、より良い関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人との外出、外食など、馴染みの関係が途絶えないよう、配慮し支援に努めている。	家族面会を可能な限り多くできるように働きかけたり、以前からの友人、担当民生委員などとの関わりも深めている。年賀状も利用者と共に手づくりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の性格や相性等に配慮しながら、入居者様の孤立を防ぐよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により契約が終了した場合でも、入居者様、家族様の相談・連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや要望、願いをその都度、職員同士が考え、話し合い、支援できるように努めている。	本人の話しやすいタイミングを見て、できるだけ会話をするようにし、思いの把握に努めている。居室でゆっくり傾聴したり、介助中の会話も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントし、入居後も本人や家族からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録、申し送りノート、日報、日々の変化を共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心になり、サービス担当者会議や日々の意見交換から入居者様に必要な介護計画になるよう努めている。	本人・家族と管理者が話し合いの機会を設け要望を聞いている。職員間では月1回のカンファレンスを行い意見を出し合っている。状態変化があった時は本人のできる力を引き出すプランの作成がされている。	状態変化が見られた時に、カンファレンスを開き、プランの見直しを実行できるような体制作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、申し送りノート、日報等を活用し情報の共有、把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスにならないように、個別支援の重要性を認識しながら柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、各居宅介護支援事業所と連携している。地域の商店、理髪店等と連携をはかり、入居者様の暮らしを支えられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様との連携を密に取り、入居者様が必要な医療を受けられるように支援している。	家族と一緒に定期的に受診している。事業所は日頃からかかりつけ医と連携を図り、健康管理に努めている。家族の事情で受診できない方や必要時には看護師が付き添う支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の日々の変化、体調不良の把握に留意し、日々の様子を看護師に報告し、相談、情報交換を行っている。看護師が正確な情報を得て判断、指示できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も頻繁に面会に行き、病棟看護師、主治医、家族と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化された場合の指針を説明している。入居者様の状態に応じて主治医、家族様と相談を重ねて対応している。	終末期の方針は、入所の際に指針をもとに説明をしている。重度の場合は、状態の変化があればその都度かかりつけ医・家族・事業所で話し合い今後の方針を決めている。現在対象者はおられない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が急変、事故発生時に速やかに対応できるよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施している。前回は平成26年11月に消防署立会いのもとご近所の方にも参加いただき消防訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加し、職員全員が対応できるよう体制を整えている。非常用の水・食料などの備蓄がある。	2日分の非常用食料と水等を備えている。マニュアルに添って緊急連絡方法を確認し、連絡網を整備し自治会とも連絡できるようにしている。避難訓練は消防署や地域の近隣住民の参加を得ている。地域の回覧板で地域の災害情報も知る事ができ、職員と一緒に地域の防災訓練に参加している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格を尊重し、入浴、食事、排泄ケアの際、職員の声掛け、見守り等において、自尊心、プライバシーに配慮できるよう対応している。	利用者への声かけは優しく行うようにし、日常の会話をできるだけ多く持つように心がけている。その際にも人格の尊重やプライバシーの配慮ができるようにしている。	勉強会や研修を通じて介護技術や認知症ケアの習得を行い、更なる質の向上が図れるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と入居者様が信頼関係を日々の生活の中で育み、個別対応を常に意識しながら、思いの表しやすい関係を築けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いや要望、願いを、その都度職員同士が考え、話し合い、支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、日中において整髪、髭剃り、爪切り等を見守りながら支援している。その日に着る洋服なども、職員と一緒に選ぶことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日入居者様と職員と一緒に食事の準備、盛り付け、片付け、買い物を行っている。一人一人の嗜好品を把握しながら、季節感を味わってもらえるように提供している。	家族や近所から頂いた野菜を調理したり、手作りおやつや季節感のある献立を提供し喜ばれている。職員も一緒に同じテーブルに座って食べる事で会話をしながら食事の楽しみを感じてもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を行い活用している。一人一人の状態を共有しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせて自立した支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツをできる限り使用しないで済むように、排泄記録を活用し一人一人の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援ができるように努めている。	病院退院時はオムツを着用していたが、リハビリパンツに替えて、時間を見て声かけ誘導する事でトイレでの排泄ができるようになった。夜間はトイレに行く時に転倒しないように見守りを必ずしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量、体調の変化、活動量等を考慮し、看護師と相談しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を活用し個別入浴や一人一人の希望に合わせて、くつろいだ入浴ができるよう支援している。体調が悪い場合は清拭を行っている。	入浴時間は希望に応じて入れるように話をしながら決めている。皮膚の乾燥防止のために入浴剤を工夫したり、入浴拒否の時に自分で清拭されるようにすすめたりし、身体を清潔にして気持ちよく過ごせる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、状況に応じた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更、追加、効用、副作用等は報告・連絡を職員が密に取り、受診記録、書面、日々の申し送りノートを活用し行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のできる事や、思い、要望、願いを、その都度職員同士が考え、話し合い、生き甲斐がもてる生活が送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、買い物、外食の個別支援を心掛けて支援している。	年間行事で花見やドライブ、足湯に出かけたり、地元の祭りの山車や獅子舞を見に行く楽しみを持っている。地域や地域包括支援センター主催の教室に通う際には地域の協力もある。希望に応じて買物や散歩に出かけたり、家族との外出も多い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際にはお金を所持していただき、ご自分で買い物の支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙・はがき等で連絡がとれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活習慣を把握し、季節に合った装飾作りに取り組んでいる。温・湿度計を置き室温調整、衣類の調整を行っている。	日中は共用空間で過ごす時間も多いため、温度や湿度管理を行い戸を開けて換気をしたり、来訪者にお茶うがいや手洗いを勧めて感染症予防に努めている。近所の方が季節の花を持ってきてくれるので季節感も十分感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性に配慮しながら、自由にご自分のスペースを保ちながら暮らせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物を自宅より持参してもらい、居心地よく安心して過ごせるように努めている。	ベッド・ダンス・空気清浄器が備え付けられている。テレビやイス、衣類ハンガーを自宅から持ち込んだり家族の写真や手紙を飾っている。体調がすぐれない時に部屋で食事をするなど安心して過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、やりたいこと、わかること、支援すればできることを把握し、安全にご自分の力で生活できるよう支援している。		

目標達成計画

作成日：平成 27年 6月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	1・2	職員が理念の実践を心掛けている事を、地域の方や家族の方に理念を知ってもらいご理解をいただけるようにする。 地域の方々に生き活きとした生活の状況を知ってもらう工夫をする。	地域の方や家族の方に施設の理念を知っていただく。 地域の方に利用者様の生き活きとした生活の状況を見ていただく。	面会に来られる方に見えるところに理念を掲げる。 町内の方々との交流を広め、施設の理念をご理解いただけるよう努力する。 地域の方々も参加していただけるような施設の行事を行う。	6ヶ月
2	26	状態変化が見られた時に、カンファレンスを開きプランの見直しができるような体制作りをする。	状態変化が見られた時、カンファレンスを開きプランを見直し実行したことを必ずカンファレンス記録に残す。	状態変化が見られた時のカンファレンスを、カンファレンス記録として必ず残す。	6ヶ月
3	4	その時々生じた課題を運営推進会議に取り上げて、サービスの向上に努める。	2ヶ月に一度の運営推進会議に課題を提示し外部の方の意見を聞きサービスの向上に努める。	5月28日の運営推進会議には「グループホームの地域としての役割」について意見を伺った。伺った意見を職員全員に周知し具体案を考える。次回、その報告とまた新たな課題を提示し意見を伺う。	6ヶ月
4	10	利用者様、家族様などの気持ちを受容できる姿勢の研鑽を継続する。	職員同士コミュニケーションを密に図り、利用者様や家族様のあらゆる情報を共有できる体制を維持する。	職員同士のコミュニケーションを密に図りあらゆる情報を共有し、利用者様、家族様の気持ちを受容できる姿勢を日々研鑽する。	6ヶ月
5	36	勉強会や研修を通じて介護技術や認知症ケアの習得を行い、さらなる質の向上を図る。	外部研修の参加を促進すると共に、社内勉強会にももっと力を入れる。	外部研修の積極的な参加を促進し、習得した介護技術や認知症ケアは社内勉強会を行い全ての職員の質の向上を図れるようにする。また、職員同士のコミュニケーションを密に図ることにより良い認知症ケアができるようにする。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。